

事業所名 グループホーム雅

運営推進会議開催報告書

開催日時 2026年9月18日(金) 14時00分～ 14時35分	
参 加 者	議 題
利用者 0 名	1 利用者様状況報告
利用者家族 0 名	2 行事報告
地域住民の代表者 1 名	3 身体拘束適正化委員会
市職員 1 名	4 質疑応答
地域包括支援センター職員 1 名	5 次回開催予定日
事業所 2 名	
会 議 録	
1 利用者様状況報告 男性1名、女性8名の計9名様が入居しております。現在満床です。 最年長：女性103歳 最年少：女性83歳 平均年齢 91歳 要介護度 要支援 2…0名 要介護 1…2名 要介護 2…1名 要介護 3…2名 要介護 4…4名 要介護 5…0名 平均要介護度 2.8	
2 行事報告 8月6日…夏の行事 スイカ割と花火を行っています。利用者様全員参加され楽しませていました。 15時のおやつで召し上がっています。夜に玄関先で花火を行っています。 8月23日…利用者1名の誕生日会 チャーハンが食べたいと訴えあり、五目チャーハンを手作りして提供しています。 9月8日…避難訓練 日中、地震想定での避難訓練を行っています。職員3名で初期消火、通報、避難誘導を行う。外で水消火器と的を使い、消火訓練もを行っています。 避難終了時間、7分24秒 9月9日…敬老会 利用者様道の駅、敷島へ外出しています。にぎり寿司の盛り合わせを召し上がって	

頂きました。15 時のおやつプリンとエクレアを召し上がって頂きました。

9 月 15 日...利用者 1 名の誕生日会

手作りバナナパンケーキと色紙、皆様の歌で、9 4 歳の誕生日をお祝いしています。

・予定行事 10 月、芋ほり

3 第 51 回身体拘束適正化検討委員会…ドラッグロック

ドラッグロックとは、医療や介護の現場で、薬物を用いて患者や利用者の行動を制限する不適切な行為のことです。

目的の不適切さ：治療のためではなく、介護負担の軽減や徘徊・興奮の防止といった「管理の都合」で薬を使うこと。

使用される薬剤：睡眠導入剤、抗精神薬、安定剤などが過剰、または不適切に投与されるケース。

心身への悪影響：本人の意思や身体を自由を奪い、生活機能（ADL）の低下を招くリスクがある。

薬の主な役割

薬には以下のような多様な目的があります。

原因の除去：細菌やウイルスを退治する抗菌薬や抗がん薬など

症状の緩和：痛みや発熱を抑えたり、かゆみを和らげる薬

不足の補完：体内で足りないビタミンやホルモンなどを補う薬

予防：感染症を防ぐためのワクチンなど

診断：病気の有無や進行度を調べるための検査薬

精神の薬（向精神薬）の主な目的

脳の神経のバランスを整え、つらい症状を軽くすることと、病気の再発を防ぐことです。

具体的には、症状の改善、再発の防止、日常生活の安定をめざします。

脳の伝達物質の調整：脳の中にある情報の伝達物質が多すぎたり少なすぎたりする状態を、化学的な作用で正しいバランスに戻します。

つらい症状を和らげる：幻覚や妄想、強い不安、気分の落ち込み、不眠、興奮といった日常生活を妨げる激しい症状を軽くします。

体調の安定：心の病気からくる動悸や手の震えなどの体の不調も一緒に落ち着かせます。

再発を防ぐ：症状が治まった後も薬を続けることで、同じ病気が再び悪化するのを防ぎます。日常を過ごしやすくする：心の安定を保つことで、学校や仕事、家庭での生活をスムーズに送れるようにします。

向精神薬を過剰に摂取すると

意識障害や呼吸抑制、最悪の場合は命に関わる重大な急性薬物中毒を引き起こします。

主な急性症状と危険性

中枢神経への影響：強い眠気、昏睡状態、意識障害、呂律が回らない、激しいふらつきが生じます。

呼吸への影響：脳の呼吸中枢が抑制され、呼吸困難や息が止まる危険があります。

心臓への影響：脈拍のペースが乱れ、危険な不整脈や血圧低下を引き起こします。

二次的なリスク：意識が朦朧として転倒・骨折したり、嘔吐物が気管に詰まって窒息や肺炎を起こしたりします。

長期的なリスク

大量服用を繰り返すと薬への「耐性」ができ、元の量では効かなくなります。その結果、さらに量が増えて激しい依存症に陥り、薬が切れたときに強い不安、震え、不眠などの離脱症状に苦しむ悪循環に陥ります。

ドラッグロックによる主な影響・リスク

過度な鎮静：強い眠気、日中も眠り続ける（寝かせきりの状態）

身体機能の低下：ふらつき、筋力低下、転倒・骨折リスクの増加

精神・認知機能の低下：注意力や意欲の低下、せん妄、昼夜逆転の悪化

内臓への負担：過剰投与による肝機能障害や食欲低下、排泄障害（失禁）

4 質疑応答

ドラッグロックは、他のフィジカルロック、スピーチロックと違い、難しい部分があるのではないか？
(瀬戸市役所高齢者福祉課)

→新しい薬の処方があった時は、服用後の利用者の様子をしっかりと観察して主治医へ報告し、利用者に合った薬、量などを調整している。

5 次回開催予定日

2026 年 11 月 20 日(金) 14 : 00～

身体拘束せずに対応する方法。

行動の背景にある不快感や要因を取り除く個別ケアや環境調整を行うことが重要。

基本的なケアの見直し

- ・ 不快感の除去
- ・ 痛み、空腹、便秘、室温などの不快な要因を確認して取り除く。
- ・ 生活リズムの調整
- ・ 日中に光を浴びたり活動の時間を増やし自然な睡眠を促す。
- ・ 水分や栄養の確保
- ・ 脱水や栄養不足によるせん妄や不穏を防ぐ。

環境・体制の工夫

- ・ 安心できる環境
- ・ 慣れ親しんだ物や装飾を置き、精神的な安定を図る
- ・ 見守り体制の強化
- ・ スタッフ間で情報を共有し、人員配置や動線を工夫して事故リスクを減らす。
- ・ コミュニケーション
- ・ 不安を煽らない穏やかな声かけを行い、安心感を持ってもらう